短歌の基礎知識

●定型

短歌は**五・七・五・七・七**の三十一音からなり、三十一文字（みそひともじ）とも呼ばれる。五・七・五・七・七はそれぞれ、**初句・二句・三句・四句・結句**といい、また、五・七・五を上（かみ）の句、七・七を下（しも）の句という。
定型より音数が多いものを**字余り**、少ないものを**字足らず**という。

●句切れ

一首の中での言葉や意味の切れ目を句切れという。言い切りの表現があるところなどに句切れがある。
・初句切れ……五／七・五・七・七
・二句切れ……五・七／五・七・七
・三句切れ……五・七・五／七・七
・四句切れ……五・七・五・七／七
句切れがない歌（句切れなし）や、句切れが二か所以上ある歌もある。

和歌と短歌

和歌には長歌や短歌などさまざまな形式があるが、平安時代以降は和歌といえば短歌の形式を指すようになった。
明治時代になると和歌革新運動が起こり、近代短歌が確立した。

短歌五首

A　くれなゐ(イ)の二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらか(ウ)に春雨のふる　正岡子規

B　みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる　斎藤茂吉

C　白鳥は哀しからずや空の青海のあを(オ)にも染まずただよふ(ウ)　若山牧水

D　※不来方のお城の草に寝ころびて
空に吸は(ウ)れし
十五の心　石川啄木

E　観覧車回れよ回れ想ひ(イ)出は君には一日我には一生　栗木京子

※不来方…岩手県盛岡の古称。

確認テスト　短歌を読んで、問いに答えなさい。

(1) Aの歌の鑑賞文として適当なものを選びなさい。

ア　助詞「の」の繰り返しが、やわらかなリズムを生んでいる。
イ　「針」という表現から、とげの鋭さや硬さが感じられる。
ウ　激しい雨に打たれるみずみずしい新芽がうたわれている。

［　　］

(2) Bの歌の鑑賞文として適当でないものを選びなさい。

ア　危篤の母に一目でも会いたいという思いが表現されている。
イ　言葉の繰り返しに、作者の痛切な思いが感じられる。
ウ　みちのくから母のもとへと急ぐ思いがうたわれている。

［　　］

(3) Cの歌の鑑賞文として適当なものを選びなさい。

ア　空の青さにかすむ鳥の姿を、のどかなものに思っている。
イ　海をうつすように青みがかった鳥の姿を美しく感じている。
ウ　周囲に染まることのない白鳥に、自らを重ね合わせている。

［　　］

(4) Dの歌の鑑賞文として適当なものを選びなさい。

ア　思春期のわくわくするような希望がうたわれている。
イ　かつての少年らしい心をなつかしむように回想している。
ウ　もう故郷の情景を思い出せない自分をなげいている。

［　　］

(5) Eの歌の鑑賞文として適当でないものを選びなさい。

ア　相手にとっては何気ない時間も、自分にとっては忘れられないかけがえのないものだと感じている。
イ　対句を用いた表現によって、同じ出来事に対する相手と自分の思いの違いが鮮やかに対比されている。
ウ　命令形による呼びかけや体言止めを使って、時間を忘れるほど楽しんだ観覧車の思い出がうたわれている。

［　　］

(6) A～Eの歌の中から、二句切れのものを二首探し、記号で答えなさい。

［　　・　　］